

研究のテーマ	言語活動の充実を図り，児童が自ら表したいことを見付けて表すことができる題材の工夫 第1学年「どんなかたちのかみにも」の実践を通して
--------	--

坂東市立沓掛小学校 教諭 野村 久美

I 研究テーマについて

各教科における言語活動の充実とは、学習指導要領の改訂において各教科を貫く重要な視点である。図工美術では、特に鑑賞の指導や表現活動の中での言語活動の充実が必要であると考えられる。鑑賞において造形的な視点を豊かにもって対象をとらえるためには、言葉で考えさせ整理させることも重要である。なぜなら言葉にすることにより、それまで漠然と見ていたことが整理され、美しさの要素が明確になるからである。さらに言葉を使って他者と意見を交流することにより、自分一人では気付かなかった価値などに気付くことができるようになる。このように対象のよさや美しさ、作者の表現意図や工夫などを豊かに感じ取らせ、考えさせ、味わわせるためには、造形に関する言葉を豊かにし、言葉で語ったり記述したりすることは有効な方法であると言える。今回1年生の「どんなかたちのかみにも」では、1年生ならではの自由で伸びやかな発想を促す上でも効果的な題材であると共に、「美しさは見る人の心の中にある」を軸に授業の中での体験を重ねることで、豊かに感じ取って表現・鑑賞する力を身に付けさせたいと考え今回のテーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 どんなかたちのかみにも

2 題材の目標

- (1) いろいろな紙の形をもとにして、かくことを楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- (2) 紙の形などから表したいことを見付けることができる。
(発想や構想の能力)
- (3) 紙の向きを変えて形をとらえ、表し方を工夫することができる。
(創造的な技能)
- (4) 自分や友だちの作品を見ながら、面白さやよさに気付くことができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

- (1) 児童の実態・アンケート結果 (平成26年5月9日 28人実施)

調査項目	回 答	教師の見取り
① 絵をかいたりや工作をつくったりするとき、コミュニケーションしながらするといいですか。	はい 25人 いいえ 3人	黙って活動するより、話しながらの方がやる気になったり、活動の継続につながっていると考える。
② 画用紙以外の物に絵をかいたことがありますか。	はい 6人 いいえ 12人	作画の方向性が画一的だったので経験者は少ないことが見取れる。
③ 自分だけの考えて絵をかいたり、工作をしたりしていますか。	はい 11人 いいえ 17人	他者との比較検討という活動の意識があまり無いと考えられる。

児童は、アンケートからも分かるように、造形遊びや工作的活動では、伸び伸びと表現することを楽しむことができるが、絵で表現することにやや戸惑いを見せる児童も少なからずいる。また、画用紙は四角いという既成概念が、その経験値の少なさからも存在するのは当然と言える実態である。

(2) 題材観

本題材は、紙の形を選んだり、紙の向きを変えてみたりしながら表したいことを思い付き、そこから発想して絵に表す活動である。絵を描くのは四角い紙という既成概念から、いろいろな形の紙に描けるんだという新しい概念との出会いにより、児童の感性が揺り動かされ、自分なりの発想を促し、個性的な表現の広がりが期待される題材である。

★できたよ・できたよみんなで見ようよ



★おわりに

見ることを楽しむ。
ブルーシートに並べてみんなで鑑賞。

みんなすごーい。
王冠みたいでしょ。おいしそうなパフェ。

おにぎりがいっぱいある。
楽器かな。アンパンマンもいるよ。



(3) 指導観

今回の題材であるどんな形の紙にも描いてよい活動をするので、まず「驚き」と「意外性」を児童に与えたい。そこから新たに挑戦する喜びが児童の感性を高め、より意欲的な表現活動につながるのではないかと考える。また、精神的にもまだ幼さの残る子ども達に、お互いの作品を見ることによさも指導していきたい。楽しく鑑賞し合いながら、他者のよさを自分の作品に取り入れることで、発想や構想を広げることができるようにさせたい。そして教師は、一人一人の表現に共感しながら、よりよい言葉かけをし活動に広がりを与えていきたい。完成した作品は、家庭に持ち帰り家族の共感を得ることで製作意欲の継続を図りたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
いろいろな紙の形を基にして、かくことを楽しもうとする。	紙の形などから表したいことを見付けることができる。	紙の向きを変えて形をとらえ、表したいことを工夫することができる。	作品を見ながら、おもしろさやよさに気付くことができる。

5 指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第一次 ②	いろいろな形の紙をみんなで見て、感じたことや思ったことを発表する。	「何々みたい。」と見立て、感じたことを発表できる。 関 【発表、つぶやき】
	使ってみたい紙を選び、気に入った向きにその形から思い付いたことを、クレヨンやカラーペンで表す。 ----- 表しながらさらに思い付いたイメージをかきたしていく。	形の特徴を見付け、そこから思い付いた形や色などについて考えている。 想 【観察・作品】 紙の形の特徴を生かした色の組み合わせや塗り方を工夫している。 技 【制作過程の観察】
第二次 ①	作品名を付けて床に並べ、友だちと一緒に見て話し合う。	作品を見ながらお互いの気付きのよさを鑑賞している。 鑑 【観察】

6 指導の実際



★はじまり

- ・たくさんかみがある。
- ・いろんな形だなー。何するのかな。
- ・あのかたちのかみを使ってみたいなー。
- ・はやく、やってみたいよ。

●場の設定の工夫

教室の中央にブルーシート
いろいろな形の紙が一望できる環境
わくわく感が高まる雰囲気作り

●板書の工夫

題材名もいろいろな大きさや形の文字を使うことで、子ども達の発想の手立てとさせたい。また、板書を見て、鑑賞としての気付きがあった児童をおさえない。

先生字の大きさが違うよ。

色も青とか赤とかいろいろだよ。

白い紙の大きさもへんだなー。



★たくさんみつけて、どんどん〇〇みたいを言ってみよう。

・見立てることで形を発見していく。

うーん。この形はね。しみたいだからなー。でもむきをかえると、、、あっそうだ。

これおもしろい形だなー。



くるまみたい。いえみたいにも見えるよ。うちゅうせんかな。

カブトムシとかたべものにもみえないかな。

おいしそうでしょ。ピザだよ。すごいね。ハムもつかいたら



・表現したあとで、友だちからのアドバイスでかきたしたり、かき続けることができる。相互鑑賞によるよい効果の現れであると考えられる。



★おもいついたよ。どんどんかくよ。

・あふれ出す思いを形にぶつけて描く場面なので、できるだけ見守り評価にあたる。



・試行錯誤しながら自己更新，探求する姿。判断しながらかいたり，試したりする姿が見られる。



大きなトラック。黄色いトラック。ど
んどんぬらないと。大きいな～。
これはね。らっぱだよ。

山と海とお魚をかいちゃう。
宇宙船にするけど，一人じゃ大変。一
緒にやらない。手伝って

・言葉かけによって，自然と生まれる共同作業
つながる姿やかかわる姿が見られる。



ねーねー。これ何にみえる。みんなどう。



III 研究の成果と課題

1 成果について

- ・いつもの四角い画用紙にかくことに戸惑いを感じていた児童も、いろいろな形を自由に見立てることで感性が揺り動かされ、自分なりの発想が促されることによって、個性的な表現に広がりのある活動になった。
- ・場の設定(教室の中央にブルーシートをひく)を工夫したことで形がよく見え、活動への意欲を高める効果があった。
- ・広い場所やグループでの活動をすることによって、友だち同士で互いに見合い「見て、何々みたいでしょ。」と互いに鑑賞しあうことで、つくり変えつくり続けることができた。
- ・完成した作品をブルーシートに無造作に並べたことから、単独だった作品を「あれとあれをつなげたら面白そう。」という共同作品へと自然に移行していくことができた。児童の鑑賞の深まりを促すことにつながる題材であった。

児童の変容(児童の反省, 感想から)

質問事項と回答
・いつもと違う紙にかく活動はどうでしたか。(複数回答) おもしろかった(20人)楽しかった(25人)またやりたい(26人)びっくりした(2人) すぐ終わっちゃった(14人) いそがしかった(1人) どんどんかけていい(4人) もっとやりたい(4人) いろいろ思いついちゃった(3人) つかれた(1人)

児童の感想からも造形遊び的要素をもったこの表現活動は、画用紙は四角いという児童の既存概念を取り除き、自由に表現できることの喜びを十分に感じる事ができたと考えられる。

2 課題について

- ・低学年の鑑賞活動における評価は、何かに書き残すではなく、活動との出会いによる「つぶやき」や「会話」、「先生あのね。」的な発言をキャッチすることが大切である。また、一人一人の思いを教師が受け止め支援することで、活動の喜びが増し表現活動が広がると考える。ただ現実的には、全ての児童の発言や思いを掴むことは容易ではない。子ども達の活動全体を見つつも、ポイントを絞って支援や評価する工夫を考えていきたい。
- ・「何年生になっても図工が大好き。」と思ってくれる児童を増やすためにも、活動中を重視した評価や、表現と鑑賞の一体化をめざした題材の工夫を今後も続けていきたい。

※参考資料

- ・「図画工作 上」教科書, 教師用指導書(日本文教出版)
- ・「形」日文教育資料(日本文教出版)



